

南部地区小学校の適正配置に係る町報告会 会議録

1. 日 時：令和5年11月15日（水）

開会：午後7時30分／閉会：午後8時30分

2. 会 場：南部町文化ホール

3. 参加者：次のとおり

	睦合地区	栄地区	富沢地区	計
乳幼児保護者				
幼保保護者	3			3
小学生保護者	5			5
一般町民	16	17	10	43
計	24	17	10	51

4. 事務局：教育長 入月一巳教育長

教育委員 望月正宏教育長職務代理者、山本純司委員、望月聡美委員
渡邊正志委員

学校教育課 若林将基課長、稲葉啓介主幹、岩田茂樹副主査、
山口淑乃主事補

5. 次第

① 開会 稲葉主幹（司会）のあいさつにより開会

② あいさつ 入月教育長からあいさつ

③ 教育委員

④ 説 明

・配布資料：「南部地区小学校の適正配置に係る町報告資料」、「南部地区小学校の適正配置に関する具体的方策案」

学校教育課長が、南部地区小学校の適正配置に係る経過及びアンケート結果について配布した資料に基づき説明する。

アンケートについては、目的と調査内容、実施時期、回答結果を説明する。またアンケートの自由記述の回答について教育委員会の見解を踏まえ説明した。説明時間は概ね35分間。

⑤ 質疑応答及び意見交換

質問：カラーの資料の3ページ。平成28年頃だったと思うが、当時の学校教育課長と、20年後には南部町で生まれてくる子供の数が、このくらいになるという話をしたことを思い出す。3ページに町の人口の将来推計があり、南部町の全体の人口はかなり斜めの右下がりです。そのグラフの年少人口の減少ペースはその当時想定されていたよりも上がっているような気がする。その辺の見解はないかもしれないが、その当時の予定では今でいう令和17年あたりで子供たちの数は、当時の話では人口が増えるような政策がとられないようであれば、子供が減って南部町で生まれる子供の数は40人くらいになると話された。それは子供を産むことができる年齢層から見込んで子供の数は何の活性策もなければ40人くらいだろうと話した。だけど上手くいかなければ20人くらいになると想定が話した覚えがある。そのペースよりも若干上がっているのでしょうか。これで言うと令和17年で267というお子さんの数、これは0歳から14歳までの数ですから、小学生、中学生の1学年の子供たちの数はもっと減る形で、おそらく学年20人を下回る。別ページにあるが、令和11年にはもう20人切っているような状況になる。1年生は19人くらいになっている。このペースでいくと今は睦合小と栄小の統合の説明だから特にどうということはないが、当初考えていたペースよりも少し早く、子供たちが生まれる数が少なくなって、次の統合も視野に入れなければいけないのではないかと今日の資料を見て感じた。もしその辺で見解があれば教えて欲しい。

回答：今の質問ですが、お手元の資料の22ページ、23ページをご覧ください。地区の説明会の際にも同じ意見がありました。この時の回答を私の方からさせていただきましたが、先ほど課長の説明にもありましたが、町では人口対策を行っています。その証拠に昨年1年間は、全体の数はこの当時の見通しよりは減ってきますが、小学生中学生合わせて5人増えた事実があります。ということは、中部横断自動車道が出来、富士市に繋がるかりがね橋の開通があることから、今後も人数の増加を期待しています。それから、統合問題に関しては、2つの要素があると考えます。1つは適正規模の関係です。いわゆる人数の関係では、ご指摘のあったところですが、それからもう1つは通学区域が関係する適正配置の関係です。この2点から考えなければならぬと思っています。そして適正規模は、これからの予想できない部分もあるのを含めて、今の段階では従来の計画通りにA地区(富沢地区)、B地区(南部地区)で進んでいくのがベストではないかと思っております。一方、もう1つの考えとしては適正規模における児童の人数の基準はどこなのかということになりますが、いわゆる国や県が示している複式学級の児童数とその基準となってきます。国や県は1クラスの人数が基準を下回ると、教育に影響を及ぼしかねない趣旨から、複式学級を編成していると思いますが、その数が小学校の場

合は12人になります。複式学級は2学年またがった数ですから1学年で6人を下回るような状況です。富沢小学校とこれからできるもう1つの学校、この状況を考えた時にまだ南部町は大丈夫ではないか考えがあります。そのために、B地区の統合をA地区と同じように推進していかれたらと考えているところです。

質問:カラー刷りの2ページを見ていただきたいのですが、今は令和5年度で睦合小94人、栄小42人、富沢小87人ということで、その後ずっと経過を見ると、少しずつ減って令和11年度に今栄小は1年生3人ですが、11年では5人に増える形ですが実際には全体ではすべての学校がどんどん減ってきていて、富沢小には11年度には1年、2年5人ずつということで当然複式学級という形になる。その数年先はおそらく全学年で5人を下回るような人数になってくるのではないかと自分の方では推測でき、だいぶ早くなっているような感じがする。どうかという話を今質問したが、数字だけ追っていくと統合した4、5年後ぐらいには富沢小学校は複式を2つも3つもするような形で推移していくと考える。おそらく平成28年に想定した南部町の人口が増えるための政策は町で頑張っているとは思いますが、国全体で人口が減っているから、南部町だけ人口が増えるということも想定しにくい。そのために企業を誘致するという話もあるがなかなかやはり南部町で人がいないから企業が来ない、企業が来ないから人も来ない、悪循環になっていると考える。8年度の統合を終えた段階で、次の統合も考えなければいけないと感じる。これは自分の見解だが、伝えておきたい。今回の統廃合について賛成反対というわけではない。教育長の話も重々承知している。あえて質問したのは子供たちの人数が減るペースが以前よりも早くなっているのではないかと思ひから確認したかった。

回答:ありがとうございます。統合には大きな点が2点ある。規模の関係もあるが、適正配置の問題が大きい。課長からも説明があつたが、範囲が広すぎる。どこか1校にということになると、80%の子供がスクールバスを使わざるを得ない状況が生まれることが考えられます。それ以外にも考えられる理由は色々あるが、この地区にあってはやはり小学生の場合は適正配置の観点からは少し無理があり、負担が増えると考えています。そのことも含め、B地区はA地区と同じように統合を進めていきたいと考えております。

6. 今後の流れについて 若林課長より説明

7. 閉会
司会による

以上